

平成 30 年度専攻科食物栄養専攻自己点検・評価報告書

| | 目 次 | 頁 |
|---------------------|-------|----|
| 自己点検・評価メンバー | | 1 |
| 専攻科 食物栄養専攻の運営 | | 1 |
| Ⅰ 教育 | | 1 |
| 1 教育課程 | | 1 |
| 2 教員組織 | | 3 |
| 3 オムニバス授業 | | 3 |
| 4 臨地実習 | | 4 |
| 5 学位取得 | | 7 |
| (1)特別研究 | | |
| (2)学位授与審査 | | |
| 6 管理栄養士国家試験対策 | | 11 |
| 7 教育課程懇談会 | | 11 |
| Ⅱ 学生支援 | | 13 |
| 1 学生指導 | | 13 |
| 2 進路指導 | | 13 |
| 3 資料（修了時アンケート） | | 14 |
| Ⅲ 地域貢献 | | 15 |
| 1 研究・社会的活動・所属関連団体研修 | | 15 |
| (1)研究 | | |
| (2)社会的活動 | | |
| (3)所属関連団体研修 | | |
| 2 地域社会への貢献 | | 28 |
| (1)公開特別講演会 | | |
| (2)公開講座 | | |
| Ⅳ 入学者確保 | | 29 |
| 1 学生募集 | | 29 |
| 2 入学試験 | | 30 |
| 3 広報 | | 31 |
| Ⅴ マネジメント体制 | | 33 |
| 1 自己点検 | | 33 |
| 2 FD/SD活動 | | 34 |
| 3 資源の有効利用 | | 34 |

自己点検・評価メンバー

| 自己点検・評価項目 | メンバー |
|--------------|--------------------|
| 概要 | |
| 専攻科食物栄養専攻の運営 | 田淵 英一 竹内 弘幸 深井 康子 |
| Ⅰ 教育 | 堀田 裕史 稗苗 智恵子 樋口 康彦 |
| Ⅱ 学生支援 | 山岸 博美 高木 尚紘 大森 聡 |
| Ⅲ 地域貢献 | 角田 香澄 中根 一恵 藤田 恭輔 |
| Ⅳ 入学者確保 | 宮田 佳奈 吉沢 美樹 岡野 文香 |
| Ⅴ マネジメント体制 | |

専攻科 食物栄養専攻の運営

I 教育

1 教育課程

(1) 実績

1)カリキュラムの改訂

| 旧 | 新 |
|----------|-----------|
| 調理学特論Ⅰ | 調理学特論 |
| 公衆栄養学特論Ⅰ | 公衆栄養学特論 |
| 栄養教育特論Ⅰ | 栄養教育特論 |
| 栄養士総合特論Ⅲ | 栄養士総合特論Ⅱ |
| 栄養学特論Ⅳ | 応用栄養学特別演習 |
| 調理学特論Ⅱ | 調理学特別実習 |
| 臨床栄養学特論Ⅲ | 臨床栄養学特別実習 |
| 臨床栄養学特論Ⅳ | 臨床栄養学学外実習 |
| 公衆栄養学特論Ⅱ | 公衆栄養学特別演習 |
| 公衆栄養学特論Ⅲ | 公衆栄養学学外実習 |
| 栄養教育特論Ⅱ | 栄養教育特別演習 |
| 栄養士総合特論Ⅱ | 栄養士総合特別演習 |

平成 29 年に（独）大学評価・学位授与機構による専攻科再認定審査があり、同機構からの意見を受けて平成 30 年度入学生からは、上の表のように名称変更を行った。

2) 学士（栄養学）希望者取得状況

平成 31 年 3 月修了生 14 名のうち、（独）大学改革支援・学位授与機構から 6 名が学士（栄養学）を受け、残り 8 名は平成 31 年 4 月期再申請手続きをとった。全員合格を目標にして

いるが、本学専攻科始まって以来の大変厳しい数字になった。原因の分析をするとともに、早急な対策が求められる。

3) 平成 23 年度からの開講時期早期化と管理栄養士国家試験合格率アップの対策

第 33 回管理栄養士国家試験は平成 31 年 3 月 3 日に行われ、同 3 月 29 日に合格発表があった。本専攻科からは平成 29 年度修了生 15 名が受験した。合格者は 15 名中 11 名であり、合格率は 73.3%であった。これは全国平均の合格率 60.4%を上回っている。しかし、本専攻科は合格率 100%を目標にしており、今後、合格率アップのため、研究生に対する勉学、生活態度に対する指導が求められる。また、定期試験および管理栄養士模擬試験において成績が下位だった学生に対する集中的な指導が求められる。

4) 学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

専攻科修了の方針、教育課程編成・実施の方針ともとも再検討はしたものの、特に細部の字句の表現以外に変更の意見はなかった。専攻科の授業科目コードの採番と科目分類方式は、4 年制栄養士養成課程として厚生労働省届け済み教育課程を基本としている。今後の科目コード等を再検討する際には、4 年制栄養士養成課程の教育課程との関係の検討も必要である。

5) 授業回数の 15 回完全実施

平成 26 年度から実施の食物栄養学科に合わせ、全科目授業回数半年 15 回の完全実施を行った。

6) Web シラバスとその付加機能

平成 26 年度から印刷物によるシラバス配布は廃止し Web シラバスのみになった。また Web シラバス付加機能が充実してきた。デジタル化してから 5 年が経過し、学生には、シラバスは紙媒体ではなく Web で見るもの、という意識が定着してきた。

(2) 課題

1) 管理栄養士国家試験受験体制の基礎固め

平成 29 年度管理栄養士国家試験より 3 月初旬試験、3 月下旬合格発表となり合否までの期間が短縮された。このため申込み時に受験資格取得見込みでは受験できなくなった。平成 28 年度入学生から、実務経験 1 年後入学した専攻科生は、修了年度の翌年度に受験可能で修了から約 1 年空くため、平成 30 年度より研究生制度が新たにスタートしている。

- ① 在学中は、1 年次から受験意欲を高め、修了時まで合格ラインに達することを目標とする。授業では試験勉強に資する内容を増やし、学生は自助努力を促す雰囲気作りをする。
- ② 修了後、無料で研究生として学校施設を利用して勉学できるよう規程を改正し、また就職にあたっては勉学を最優先するよう学生に働きかけ、また専攻科としても就職希望者には勉学しやすいところを紹介できるように努力する必要がある。

卒業後の進路についてのアンケート調査の結果、就職を希望する学生もおり、個別の対応が必要である。

2) 授業時間外の学習時間の向上

専攻科は講義科目が多く、文部科学省の基準どおりの授業時間外の学習時間確保には、体系的な方法をとる必要があると認識している。そのための施策は平成 31 年度に向けて、じっくり対応するべきであろう。

3) アクティブ・ラーニング授業比率向上

同様にアクティブ・ラーニング授業比率も講義が多く、平成 31 年度に向けて、施策はじっくり対応するべきであろう。アクティブ・ラーニングを促す情報環境については、栄養計算ソフトの活用できる環境づくりを目指す。

4) 地域関係の授業・研究の維持・充実

特別研究では、地域関連研究が 1 件あった。他にも地域を対象とする調査・研究も検討されており、今後も地域関係の授業・研究の維持・充実が望まれる。

2 教員組織

(1) 実績

「特別研究」を教員 10 名で担当した。うち専攻科 1 年生担当は 7 名であった。

専攻科は開設以来 14 年目を迎え、平成 22 年度に原則食物栄養学科教員すべてが専攻科の授業と特別研究を担当するようになって以来、全体として教員組織は充実している。ただし食物栄養学科及びその他の授業の担当らより、やや負担が過重と思われる担当者も存在する。また、学位認定試験において不合格者を出したゼミにおいては、今後の取り組みを考える必要がある。

(2) 課題

年度末に退職する教員 2 名の補充に新任教員 1 名が平成 31 年度に採用予定である。円滑な教員組織の運用が望まれる。なお専攻科には 70 才以上の非常勤講師が 3 名いるため、教員組織の若返りが期待される。

3 オムニバス授業

(1) 実績

本年度実施されたオムニバス授業は以下の通りである。

| 科目名 | 所属先・講師名 | 開催時期又は回数／要 旨 | 学外参加者 |
|---------------|--------------|--|-------|
| 公衆栄養学 特論 I | 桑守豊美名誉教授 | 11 回 | 2 名 |
| | 由田克士大阪市立大学教授 | 4 回 6 月 1 日(金)3~4 限、6 月 2 日(土)1~2 限【公開授業】 「日本人の食事摂取基準 2015 年版」を基に現場栄養士に必須の「摂取基準の活用」、「国民健康・栄養調査」、「食生活改善の目標」、「健康日本 21」等の解説。 | |
| 公衆栄養学 | 桑守豊美名誉教授 | 12 回 | |

| | | | |
|--------------|--------------------|--|--|
| 特論Ⅱ | 稗苗智恵子教授 | 3回 | |
| | | | |
| 保健衛生学 特論Ⅱ | 角田香澄講師 | 9回 | |
| | 木村郁子講師 | 6回 | |
| 臨床栄養学 特論Ⅱ | 小野章史川崎医療福祉大学 教授 | 3回 6月22日(金)1~3限 最近特に(管理)栄養士に必須の知識とな っている臨床栄養学を分り易く講義され た。 | |
| | 稗苗智恵子教授 | 12回 | |
| 栄養士総合 特論Ⅰ | 石塚盈代名誉教授 | 1回 | |
| | 専任教員 | 14回及び国家試験模擬試験2回 | |
| 栄養学特論Ⅲ | 宮本嘉明准教授 | 5回 | |
| | 酒井秀紀富山大学教授 | 3回 | |
| | 藤秀人富山大学准教授 | 4回 | |
| | 木村郁子富山大学教授 | 3回 | |
| | | | |

(2) 課題

専任の教員には担当できない科目・分野があり、今後、安定して非常勤講師を確保することが重要である。

4 臨地実習

(1) 実績

1) 公衆栄養学特論Ⅲ

- ① 専攻科2年生14名が、厚生センターまたは保健所で臨地実習（公衆栄養学特論Ⅲ、1単位）を下記日程により5日間（45時間）行った。

実習期間は次のとおりである。

| 受託施設 | 実習期間 | 実習生数 |
|----------|--|------|
| 富山市保健所 | 平成30年9月10日～9月14日 | 4名 |
| 新川厚生センター | 平成30年8月28日, 29日 9月6日, 7日, 11日, 12日, 14日 | 2名 |
| 中部厚生センター | 平成30年9月11日～13日 18日, 20日 | 3名 |
| 高岡厚生センター | 平成30年8月23日, 24日, 27日, 28日 30日, 31日 | 1名 |
| 砺波厚生センター | 平成30年8月21日, 22日, 27日, 28日 30日, 31日 | 4名 |

- ② 平成23年度より、本学学長と富山県厚生部健康課長との間で「インターンシップの実施に関する覚書」を取り交わした上で臨地実習を実施している。

- ③ 例年、厚生センターおよび保健所の栄養業務担当者を集めての日程調整が困難なことから一昨年から担当者が各施設を訪問して、主旨の理解と協力を求めている。
- ④ 公衆栄養学の授業において、滑川市の行政栄養士の業務について滑川市民健康センター長、管理栄養士 結城幹子氏より講義していただき、実際の市町村栄養士業務について学ぶ機会を設け、実習前に現場の状況が少しでも把握できるように配慮した。
- ⑤ 5日間という短期間ではあるが、どの施設においても学生にとって知識と技術を統合させる貴重な体験を積むことができた。昨年度から臨地実習票と評価を兼ねた様式に変更した。実習状況の評価は、5段階評価（総合）で、「A」1名「B」9名、「C」4名であった。（D、E評価なし）
- 今年度は、実習先へのノート未提出で再度提出を求められたこともあり、報告会までを一括して評価している。
- ⑥ 平成30年12月19日（水）14:50～16:20、各施設の指導担当者にご参加いただき（新川欠席）、専攻科2年生（1名欠席）が課題等を発表する臨地実習報告会を実施した。専攻科1年生が参加・聴講した。併せて、同日16:30～17:15に、富山県健康課栄養士、各施設の指導担当者、および本学専攻科長および担当教員による意見交換会を実施し、本学学生の実習の様子等を実習指導担当者より伺い、多くの示唆をいただいた。これらの意見を次年度実習生へ伝え、教訓とすることにした。

2) 臨床栄養学特論Ⅳ

- ① 平成21年度より、臨床栄養学特論Ⅳにおける病院実習期間を1週間から2週間に増やしている。また、平成25年度から、学則を変更して授業1単位から2単位として実施している。平成31年2月4日（月）～3月8日（金）、専攻科1年生全15名が1施設1～2名で、下記の受託先の県内総合病院において臨地実習を行った。今年度は県西部地域在住の学生が多かったことから、市立砺波総合病院は2年目、金沢医科大学氷見市民病院へは初めて臨地実習を依頼した。

実習日程は次のとおりである。

| 受託施設 | 実習期間 | 実習生数 | 懇談会出席状況 |
|--------------------|----------------------------|------|---------------|
| 富山大学附属病院 | 平成31年2月4日～2月15日 (11日含む) | 1名 | 欠席 機能評価のため |
| 富山県立中央病院 | 平成31年2月18日～3月1日 | 1名 | 出席 |
| 富山市民病院 | 平成31年2月18日～3月1日 | 1名 | 欠席 |
| 富山赤十字病院 | 平成31年2月25日～3月8日 | 2名 | 欠席 |
| 済生会富山病院 | 平成31年2月25日～3月8日 | 2名 | 欠席 |
| 厚生連高岡病院 | 平成31年2月18日～3月1日 | 2名 | 出席 |
| 富山ろうさい病院 | 平成31年2月18日～3月1日 | 2名 | 出席 |
| 市立砺波総合病院 | 平成31年2月18日～3月1日 | 2名 | 急遽欠席 |
| 金沢医科大学附属 氷見市民病院 | 平成31年2月4日～2月18日 | 2名 | 出席 |

- ② 臨地実習に先立ち施設の管理栄養士との意見交換会を実施した。今年度は初めてご依頼した1施設を含む4施設と例年より少なかったが、打ち合わせ会資料を後日配布し、意思疎通に努めた。管理栄養士養成校におけるカリキュラムを遵守した実習内容を実習担当者に説明し、意見などを伺った。また、学生には事前打ち合わせを早めに何うように指示し、課題等を事前に把握し実習に望むことが出来るように促した。
 - ③ 受入側の対応として、どの施設においても、臨地実習の主旨をよく理解していただき、本専攻科生に対して積極的に学ぶ機会を提供していただき、専門的な指導をしていただいた。
 - ④ また、平成30年7月14日（土）及び8月25日（土）のオープンキャンパスの機会に、2月から3月に行った内容について2年生が臨地(病院)実習報告を行った。
 - ⑤ 平成30年7月20日（金）午後1:40～2:30、実習施設の指導者のご参加をいただきながら、専攻科1年生等に事後報告会を実施し、その後意見交換会も実施することができた。
- (2) 課題

1) 公衆栄養学特論Ⅲ

- ① 臨地実習(保健センター)は1週間(1単位)しかないため、行政の実務や栄養行政の現状を十分に理解するまでには至っていない。この対策として、実習日数を増やすなどの措置が必要ではあるが、学生にとっては、特別研究などの授業、学会発表など多様なイベントがあるため、現状で手一杯と考えられる。また、平成31年度から隣県からの実習性受け入れもあるということで、富山県庁の担当者には早期から調整を依頼している。
- ② 夏休休暇期間中に実習を実施しているので、補充授業もなく円滑に進行することができている反面、学生が実習主旨や課題への取り組みが不十分となったり、実習レポートの提出が遅れる、さらに今年度は実習ノート未提出で再提出を求められるなど、責任感のない学生がいたことから今後は、経過を確実に押さえて実習に取り組むように強く指導する必要がある。
- ③ 富山県および富山市の担当者と前年度から人数や居住地を伝え、受け入れを依頼し、4月早々から打ち合わせをして実習生の振り分けを調整した。事前打ち合わせ会では、次年度の実習予定者についてもお伝えし、実習担当者の負担を減らすことや要望にできるだけ応じるように工夫をしている。次年度以降も、実習担当者と早期から連絡・調整する必要性があると感じ、12月時点で申し入れを行った。
- ④ 今後も臨地実習報告会では、富山県健康課や県内各厚生センターの実習指導者に参加していただいた。その後、意見交換会を開催し、実習指導者の皆様から積極的な忌憚のない意見をいただく機会として今後も、意見交換会を継続していきたい。
- ⑤ 臨地実習施設で出来るだけ45時間の実習をさせて頂くために、各施設で時間割を配慮していただき多くの体験させていただくことができた。各担当者の日常の勤務時間が40時間以下となってきていることから5日ではなく5.5日程度の実習時間を組み込んでいただいた。学校での補いも必要ではあるが、その場において初めて理解出来ることが多いと考え、今後も協力を仰ぎたいと考えている。
- ⑥ 昨年、8月の食品衛生月間に富山市保健所から1日食品衛生監視員の委嘱を受け、臨地実習で不足しがちな校庭について広く学ぶ機会を得ている。今年度も専攻科2年生14

名が食品衛生の視点で講義を受け食品製造メーカーの監視業務を体験させていただいた。

- 2) 臨床栄養学特論Ⅳ (H29 年度入学生)・臨床栄養学学外実習 (臨地実習：臨床栄養学) (平成 30 年度入学生)
- ① 管理栄養士養成のための臨地(病院)実習の時間を 90 時間としたが、他の医療職種と比較して短時間で、管理栄養士業務の習得と実践にはまだ不十分である。しかし一方、医療現場では、年々、患者さんやチーム医療において他の医療スタッフと直接話す機会が増えている。臨地実習を通して、実際の医療現場に携わることにより、知識と技術の不足や判断の重要性などを認識することや、実習指導者の姿に感動したりするなど、学生の学習意欲の高揚につながっている。
 - ② 実習後に行う実習指導者による実習中の評価では、総合評価 5 段階のうち、「A」4 名、「B」7 名、「C」が 4 名であった(「D」「E」なし)。ノート内容の希薄さや事前事後学習についてやや不十分と評価された学生がいた。また、積極性がないと評価された学生もおり、自らが取り組む姿勢が今後問われる。今年度は 1 施設に 1 人の実習という学生が 3 名いたが、頼ることなく真摯に実習に取り組むことでの学びの大きさがあつたのではないかと考えている。今後は学生ひとり一人が日常の学習や生活面での充実を図り、社会人として自らがなりたい管理栄養士像を描いて近づくことが出来るように働きかける必要性を感じた。
 - ③ 降雪が少なく道路事情が案外押していたこともあり遅刻や欠席の学生はいなかった。今後も体調管理の徹底を含めて報連相の周知徹底が必要である。
 - ④ 次年度は、専攻科 1・2 年生を対象に臨地実習報告会を 6~7 月頃に実施したい。2 年生にとっては成果をまとめ発表する機会とし、1 年生にとっては臨地実習に向けての準備や学ぶ意欲の向上を図りたい。また、受託施設の指導者を招待して、他の施設での実習指導のやり方を参考にさせていただきたいと考えている。欠席者にも報告書を送付して実習成果をお知らせする予定である。
 - ⑤ 本学科に関心がある高校生を対象としたオープンキャンパスでも、臨地実習報告の発表スライドを利用して管理栄養士の仕事を紹介し、多くの高校生から興味を持ってもらった。今後、食物栄養学科生を対象とした臨地実習報告会の実施も検討したい。学生の意欲向上につながるのではと感じている。

5 学位取得

(1) 実績

1) 特別研究

専攻科 1 年次には特別研究中間発表会を 10 月に実施して、特別研究の研究計画や実施状況を研究グループごとに発表した。また、専攻科 2 年次には全ての学生が国内の栄養・調理系学会で発表し(本自己点検報告書「Ⅲ. 地域貢献 1. 研究・社会的活動・所属関連団体研修 (1) 研究「所属学会・研究会・研究発表等」)、特別研究発表会を 11 月に実施した。

特別研究テーマ (2 年生)

平成 30 年度の専攻科 2 年生の特別研究テーマは、下表の通りである。また、平成 30 年 11

月 12 日（月）午後 4 時半から特別研究発表会が実施された。

特別研究発表会は 2 会場で同時進行するので、教員はどちらかの会場に分かれて発表を聞くことになる。そのため、全ての発表を聞くことができない。また、時間的制約のため発表に対する質問もすることができない等の課題が残る。

特別研究一覧（専攻科 2 年生）

| 項番 | テーマ名 | 学生氏名 |
|----|--|-------|
| 1 | 赤米及び白米ペースト／南瓜混合パンケーキの性状と嗜好性 | 岩口 杏奈 |
| 2 | 地域における高齢者の栄養状態の把握と活用 | 荻山 沙織 |
| 3 | 若年女性の SOC と身体活動量の関連について | 加田 大知 |
| 4 | 栄養・作業・運動療法により認知症状が改善しなかった高齢認知症症例 | 川並 千春 |
| 5 | 短大生の昼食の実態及び昼食に影響を与える要因 | 澤井 薫那 |
| 6 | 赤米ペーストを用いた焼き菓子の調理特性に及ぼす南瓜添加の影響 | 下川 真梨 |
| 7 | 一般成人女性における糖代謝マーカー及び血圧に対するトランス脂肪酸 1.5% エネルギー摂取の影響 | 神保 紘子 |
| 8 | 脂質の摂取と血清脂質濃度との関係について | 住吉 藍 |
| 9 | 栄養・作業・運動療法により認知症が維持・改善した高齢認知症症例 | 田村麻美子 |
| 10 | 高齢者を対象とした乳和食の開発と普及活動 | 土倉 美咲 |
| 11 | とろみ調整食品およびゲル化剤の添加が食後血糖上昇に与える影響 | 常本麻土香 |
| 12 | 発芽玄米摂取によるアレルギー性鼻炎症状の改善 | 中塚 千尋 |
| 13 | 発芽玄米摂取によるアトピー性皮膚炎の治療効果の改善 | 宮本 桃子 |
| 14 | 長野県と富山県にみる病気別死亡原因の特徴、及び生活・食環境等との関連の検討 | 山口 理紗 |

特別研究中間発表

平成 30 年 10 月 20 日（土）の午前中（大学祭期間中）に、専攻科 1 年生 15 名が特別研究の中間発表を行った。

特別研究中間発表一覧（専攻科 1 年生）

| 項番 | 演 題 名 | 発表学生 |
|----|-------|------|
|----|-------|------|

| | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 口腔内硝酸塩還元菌の菌数および種類が野菜摂取後の唾液中に含まれる硝酸塩および亜硝酸塩量に与える影響 | 梅 田 |
| 2 | 対象者別Sense of Coherence(SOC)と栄養摂取状況の関連について | 奥谷・加藤 高橋 |
| 3 | 発芽玄米摂取によるアトピー性鼻炎とアレルギー性皮膚炎の治療効果の検討 | 小森・森澤 |
| 4 | トランス脂肪酸摂取と血中脂質濃度 | 沢田・瀬戸 |
| 5 | オレオノール酸ががん悪液質モデルマウスに与える影響 | 茶 谷 |
| 6 | 栄養・作業・運動療法による認知症の短期的運動機能評価 | 成瀬・慶山 若林 |
| 7 | えごま葉ががん悪液質モデルマウスに与える影響 | 濱 田 |
| 8 | とろみ調整食品の添加および献立内容の違いが食後血糖上昇に与える影響 | 堀 |
| 9 | 野菜における食べる順および調理法の違いが食後血糖上昇に与える影響 | 本 村 |

学会発表

専攻科2年生の特別研究に関連した学会等の研究発表は、以下の通りである。

学会における研究発表の一覧

| 項 番 | 発表タイトル：発表学会、発表月、場所 | 学生氏名 |
|--------|--|-------|
| 1 | 米ペースト／南瓜混合パンケーキの調理特性 ー赤米と白米の比較一、日本調理科学会東海・北陸支部 第14回研究発表会、2018年7月、名古屋 | 岩口 杏奈 |
| 2 | 地域における高齢者の栄養状態の把握、日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 荻山 沙織 |
| 3 | SOCは健康行動と関連するか、第27回日本健康教育学会学術大会、2018年7月、兵庫 | 加田 大知 |
| 4 | 栄養・作業・運動療法により認知症状が改善しなかった高齢認知症症例。第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟。 | 川並 千春 |
| 5 | 短大生の昼食に影響を与える要因、第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 澤井 薫那 |
| 6 | 赤米ペースト焼き菓子の性状に及ぼす南瓜添加の影響、日本調理科学会東海・北陸支部 第14回研究発表会、2018年7月、名古屋 | 下川 真梨 |
| 7 | 一般成人女性における糖代謝マーカー及び血圧に対するトランス脂肪酸1.5%エネルギー摂取の影響、日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 神保 紘子 |

| | | |
|----|---|--------|
| 8 | 脂質摂取と血中脂質および糖代謝マーカーとの関係 - β 3アドレナリン受容体遺伝子のタイプ別解析-、第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 住吉 藍 |
| 9 | 栄養・作業・運動療法により認知症状が維持・改善した高齢認知症症例。第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 田村麻美子他 |
| 10 | 高齢者を対象とした、乳和食の開発と普及活動、第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 土倉 美咲 |
| 11 | とろみ調整食品の添加およびゲル化剤の添加が食後血糖上昇に与える影響、第22回日本病態栄養学会年次学術集会、2019年1月、横浜 | 常本麻土香 |
| 12 | 発芽玄米摂取によるアレルギー性鼻炎症状の改善。第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 中塚千尋 他 |
| 13 | 発芽玄米摂取によるアトピー性皮膚炎症状の改善。第65回日本栄養改善学会学術総会、2018年9月、新潟 | 宮本 桃子 |
| 14 | 長野県と富山県にみる病気別死亡原因の特徴、及び生活・食環境等との関連の検討、第14回日本栄養改善学会北陸支部学術総会、2019年2月、富山 | 山口 理紗 |

2) 学位授与審査

専攻科2年14名全員が、学士取得のため学位授与審査の申請を行った。4月のオリエンテーション期間中3日間をかけて、単位修得状況申告書の作成方法を説明し、各自申告書を作成し、専用診断ソフトにかけて単位修得状況申告書の内容を検証した。7月上旬には、学位授与申請書や住民票など、その他に必要な書類の作成等について説明し、9月中旬に学習成果以外の書類についての準備を終えた。9月末までに学習成果（レポート）を完成させ、申請書を郵送した（10月期申請）。学習成果の定着を確認するための試験が、平成30年12月16日（日）に実施された。平成30年11月12日に特別研究発表会を実施し、試験対策のため発表を聞いた教員および専攻科生が想定質問を作成した。審査の結果6名が合格した。専攻科は平成29年度に学位授与機構の「教育の実施状況等に関する審査」を1年かけて受け事務処理が大変であったが、心配していた学位申請への影響はなく申請処理はスムーズに行えた。

(2) 課題

1) 学位審査

学位審査で残念ながら8名の不合格者がでた。研究テーマ又は研究手法が難しい内容であるか内容が目的と結論との間の貫性が不明確であればあるほど、研究内容自体の把握、周辺知識を固めて小論文試験に臨むことが必要である。また研究目的は不合格の8名に関しては、指導教員を中心に対策をとり平成31年度4月期再申請の予定である。

2) 学位申請手続き

学位授与機構への専攻科学生の学位申請は、平成31年度からは原則として郵送ベースではなくインターネット経由になるので、申請方法の変更とそれへの対応が必要となる。

6 管理栄養士国家試験対策

(1) 実績

- 1) 平成 31 年 3 月に実施された第 33 回管理栄養士国家試験を平成 29 年度修了生 15 名全員が受験し、11 名が合格した。合格率は 73.3%であった。
- 2) 平成 30 年 6 月 22 日(金)には専攻科 1 年生を対象に、10 月 13 日(土)には専攻科 1、2 年および研究生を対象に、川崎医療福祉大学の小野章史教授を講師に招き、特訓講座を開講した。

(2) 課題

第 33 回管理栄養士国家試験の学内合格率は 73.3%と合格率の全国平均 60.4%を上回った。試験制度の変更に伴い、専攻科終了後 1 年間の研究生を経てからの受験となる。一年間、修了生は研究生制度を利用して勉学に励むが、全国の管理栄養士養成課程(新卒)の合格率(今年度は 95.5%)並みの合格率を維持していけるかが今後の問題となる。研究生の実績が後に続く専攻科生のモチベーションや専攻科入学希望の学生数に反映されると予想される。

7 教育課程懇談会

実施日：平成 31 年 2 月 4 日(月)15:00~16:00

場 所：食物栄養学科 F302 教室

参加者：食物栄養学科 教職員 15 名 非常勤講師 2 名 泉先生、関先生

進 行：樋口

配布資料：レジュメ、教育課程(H30・29 学科・栄養教諭)、時間割(H30 前・後期)、学科概要

非常勤講師挨拶

泉：28 年前に、食物栄養学科の学生に実技を教えたことがある。管理栄養士には運動の知識も必要であると思う。

関：前からこちらで科目を受け持っている。村上先生と同じテキストを使っている。社会保障は早めにするのがいいか、ギリギリにするのが良いかわからず、こちらの意見を伺いたい。うちにもいるのだが国家試験という点で、勉強に前向きになれない生徒にどう接したらいいか、伝授してほしいと思って今日はやって来た。

1. 専攻科生への教育方針&ゲートの設定

田淵：1 年生は授業が中心、2 年生は授業と特別研究および国試勉強が中心、研究生は国試の勉強が中心となっている。研究生になる際には、年間計画表提出、国試の翌日に問題をやって 60%から 70%取れることをゲートとして設けているがうまく機能していない。現役合格率を 87%から 100%に持っていきたい。

樋口：専攻科が終わった後、もう 1 年あるということでみんなその 1 年をあてにしている。専攻科修了時に合格ラインにほぼ達していて残りの 1 年はそれを維持するというのが現役での合格率 100%に向けて必要だと思う。

大森：具体的に何か対策はないですか。

樋口：最後の模擬試験の結果を見て、面接を行うとよい。

田淵：模擬試験の結果が60%くらいに達するまで、何度でも模擬試験を受けるという方針で行きたいと学生に伝えてある。

稗苗：60%取れなかったら必ず対策講座を取るようにはさせることが必要である。成績を伸ばすことに対する意識付けをしなければならない。

竹内：関先生にお聞きしたいのだが、福祉学科で国家試験に向けてどのような対策を取っているのか教えてほしい。

関：学力別にクラス分けをしている。苦手な科目の底上げをしていくことで合格率のアップを狙っている。また下位の学生は国語力がなく、問題文の意図を読み取れないので、そのことへの対策を行っている。下位の学生には教員が授業とは別に週に3~4回対策講座を行っている。そのことについて学生からの不満はない。

田淵：専攻科では、教員が食物栄養学科を兼務していることもあり、対策講座を行う空き時間がとりにくい。

大森：講座に来るのはトップの学生で、下の学生が来ない。

田淵：専攻科では、授業内容が良くなかった場合、折角授業に出たのにと怒る学生がいる。

関：ティーチングではなくコーチングを行いたい。

田淵：次は学生の自主性について話し合いたい。今の学生はほとんどがバイトをしている。

角田：模試のお金を全て自費にした方がいいのではないかと。自分のお金がかかっているとちょっと頑張るのではないかと。私が助手の時は、上位の学生に対して助手が指導していた。最近国試を取った人が教えるのが効果的だと思う。

田淵：最近の学生は、先生より先輩を尊敬していて言うことをきくので、その方法はいいかもしれない。

深井：専攻科2年生の最初に今年の国試の問題をやらせている。下位の人は問題を取りに来ないし、成績も入学時からほとんど伸びていない。今度のテストで取る成績の目標を言わせてから問題を渡している。モチベーションを上げることが大切。来年も同じようにならないように、もっと刺激を与えて、自分の成績を自覚させて、階段を登るように実力を上げさせていくことが大切だと思う。

田淵：自分の研究生へのサポートをどう行っているか。

角田：研究生の1年間は過ごし方ひとつで良くもなるし悪くもなる。過ごし方が大切だと伝えている。模試の学生に返す結果をもらいたい。どの学生がどの分野がだめなのかなど把握しておきたい。

竹内：1人ひとりカルテを作って1週間の時間割を書かせて、それについてコメントを書かせている。基本的に専攻科の2年間で合格に必要な実力をつけさせることが大切だ。栄養士総合特論Ⅲは必修にし、かつ最後の模試で120点取れなかった学生は卒業させない、くらいの対策が必要である。

深井：私も竹内先生の意見に賛成です。今年の研究生で専攻科卒業時に、合格点に達していたのは一人だけだった。

泉：長野で管理栄養士の4年制専門学校で教えていた時、非常勤も含めて、どの分野がなぜ合格点に達していないかについて対策を取っていた。3年生の時にC判定だったら4年生にさせ

ないということをしていたと思う。

田淵：本学では国家試験を受けたい人は受けさせるという方針でやってきたが限界が来たら考えないといけないかもしれない。受けたい人が全員受けて合格率87%というのは高い数字だと思っている。

関：うちでは、全員受験しろ。そのために勉強しろと言っている。落ちた後どうフォローするかが問題になっている。学校の管理がなくなった後のフォローをどうするかが課題になっている。

竹内：授業ごとのゲートを高くすることも大切ではないか。

田淵：授業の中に国試対策をどう取り入れていくかについてはまた別の機会に話し合いたい。

稗苗：国試対策だけではなく、いざ働くとなった時のノウハウなどを教えていくことも重要だと思う。

2. 課題

学位試験および国家試験に関しては合格率アップのための課題があり、今後の方向性を確定していく必要がある。

II 学生支援

1 学生指導

(1) 実績

1) 休学・退学等の状況

1・2年生ともに休学および退学者はいなかった。

2) 体験研修

目的：専攻科1年次学生に日本のトップレベルの施設および栄養士業務を見聞させ、自分の将来像を明らかにし、今後の勉学に役立てる。

対象： 専攻科1年生 15名 教員1名 参加

日時： 平成30年9月20日（木）～21日（金） 1泊2日

研修場所：

① 味の素川崎工場

② 女子栄養大学クリニック 施設見学

3) 大学祭への参加および保護者懇談会

今年度は、大学祭の学科企画として、専攻科1年生の特別研究中間発表会（平成30年10月20日（土））を実施。同日午後に保護者懇談会の時間を設けた。

(2) 課題

大学祭では1年生の学習成果発表会を行ったが専攻科生の研究活動を内外に知らせるチャンスでもあることから学習成果発表会への参加者数が増えるよう工夫が必要と思われる。

2 進路指導

(1)実績

2017年度から、国家試験早期受験による制度改正により、専攻科修了時に管理栄養士国家試験受験ができなくなったため、2018年度修了生も管理栄養士国家試験を受験しない。修了生は14名中13名が研究生(授業料免除)となり、1名が就職予定であり、管理栄養士インターンシップ(6名)や栄養士関連業務でスキルアップをはかる。また、2017年度修了生全員(15名)は、2018年度管理栄養士国家試験合格(試験日:3月3日(日))に向けて受験勉強中である。

(2)課題

- 1) 昨年度から研究生という新たな進路ができたが、研究生期間中1年間の計画書をしっかりと立て、それを基に管理栄養士国家試験合格を目指し、確実に合格するための学習体制を構築する。
- 2) 世の中の栄養士・管理栄養士に対する期待は高く、これに応えるためにも、これまで以上に栄養士・管理栄養士としての実務能力を高める。
- 3) 2年後期授業終了後に実施される教養科目対策講座の受講生が、今年度0名であった。ちなみに、昨年では4名が受講していた。例年、富山県や富山市等の公務員や総合病院に就職する実績があることから、2018年度修了生に対しては、研究生になってから教養科目対策講座の受講を促すなどの就職活動支援を実施する。

3 資料(修了時アンケート)

(1)平成30年度 修了時アンケート集計結果

富山短期大学(抜粋)平成31年2月実施 回答者数14名中14名(100%回収率)

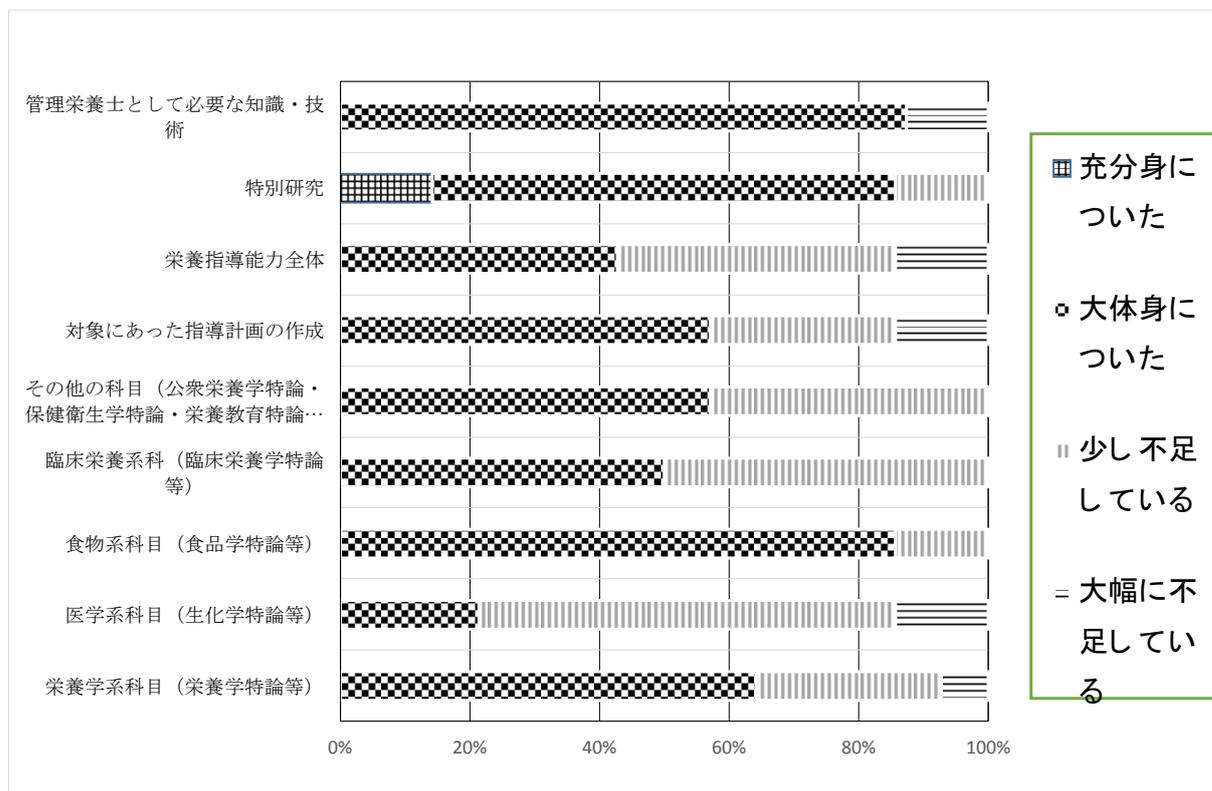
1 専攻科食物栄養学科に入学して良かったと思いますか。

| 大変良かった | 良かった | どちらとも いえない | あまり 良くなかった | 良くなかった | 計 |
|--------|------|---------------|---------------|--------|----|
| 1 | 5 | 6 | 2 | 0 | 14 |

「あまり良くなかった」を選んだ理由

- ・管理栄養士国家試験とあまり関係がないように見受けられる授業があった。

2 どのくらい身に付きましたか。



3 専攻科食物栄養専攻に期待するものは何かありますか。

- ・学位試験無しに学位がとれたらよい。
- ・管理栄養士国家試験対策、求人对策。

4 研究生になるにあたり、期待していること、不安なことは何かありますか。

- ・管理栄養士の業務に関する授業、栄養指導の授業
- ・就職支援
- ・進路相談

(2) 課題

専攻科修了とともに国試を受験できなくなった2年目の終了生である。専攻科に入学して良かったかどうかは、「どちらともいえない」「あまり良くなかった」が全体の約57%を占め、昨年度比約倍となった。1年間の研究生をどのように過ごし、国試対策を行ったらよいか、不安に思っていることがわかった。今後は学習および生活面でのサポートが課題だと感じた。

III 地域貢献

1 研究・社会的活動・所属関連団体研修

(1) 研究

著書・論文・執筆等

田淵英一

【論文】

- ① Takeuchi, H., Futatsuya, C., Miki, A., Tabuchi, E., Sugano, M. : Supplementation with trans fatty acid at 1% energy did not increase serum cholesterol irrespective of the obesity-related genotypes in healthy adult Japanese. Asian Pacific Journal of Clinical Nutrition, 27(4), 797-803 (2018)

【執筆】

- ① 田淵英一（監修）：脳トレーニング問題集 vol.4, VITA, 112号別冊, p.1-8 (2018), 富山県いきいき長寿センター（富山県社会福祉協議会）, 富山
- ② 田淵英一（監修）：脳トレクイズに挑戦!, porta, 第29号, p.14 (2018), 一般財団法人長寿社会開発センター, 東京
- ③ 田淵英一（監修）：脳トレーニング問題集 vol.5, VITA, 113号別冊, p.1-8 (2018), 富山県いきいき長寿センター（富山県社会福祉協議会）, 富山
- ④ 田淵英一（監修）：脳トレクイズに挑戦!, porta, 第30号, p.14 (2018), 一般財団法人長寿社会開発センター, 東京
- ⑤ 田淵英一（監修）：脳トレクイズに挑戦!, porta, 第31号, p.14 (2018), 一般財団法人長寿社会開発センター, 東京
- ⑥ 田淵英一（監修）：脳トレーニング問題集 vol.6, VITA, 114号別冊, p.1-8 (2018), 富山県いきいき長寿センター（富山県社会福祉協議会）, 富山
- ⑦ 田淵英一（監修）：脳トレーニング問題集 vol.7, VITA, 115号別冊, p.1-8 (2018), 富山県いきいき長寿センター（富山県社会福祉協議会）, 富山
- ⑧ 田淵英一（監修）：脳トレクイズに挑戦!, porta, 第32号, p.14 (2018), 一般財団法人長寿社会開発センター, 東京
- ⑨ 田淵英一：特集 脳トレであたまスッキリ!, 北日本新聞 みらーれ, 5月号, No.239, p2 (2018), 富山

竹内弘幸

【論文】

- ① Takeuchi, H., Futatsuya, C., Miki, A., Tabuchi, E., and Sugano, M. : Supplementation with trans fatty acid at 1% energy did not increase serum cholesterol irrespective of the obesity-related genotypes in healthy adult Japanese, Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition, 27, 797-803 (2018). 共著

深井康子

【執筆】

- ① 『伝え継ぐ日本の家庭料理 魚のおかず—いわし・さばなど—』：別冊うかたま, ぶり大根 p.36, 昆布じめ p.50, ほたるいかの酢味噌和え p.94, 白えびのかき揚げ p.107, 農文協 (H30.9)

- ② 『伝え継ぐ日本の家庭料理 野菜のおかず―秋から冬―』：別冊うかたま, お酢わい p. 20, かぶらごき p. 21, よごし p. 53, 農文協 (H30. 12)
- ③ とやま幸の食卓「家庭で作れるかぶら寿司 簡単レシピ」：北日本新聞, アルビス (H30. 12)
- ④ 『伝え継ぐ日本の家庭料理 炊き込みご飯 おにぎり』：別冊うかたま, とろろ昆布おにぎり p. 96, 農文協 (H31. 3)

【新聞・その他】

- ① 県民は野菜嫌い？難しい1日 350g 厚労省提唱の健康づくり指標：北日本新聞, p. 14 (H30. 9. 22)
- ② とやま幸の食卓①「富山の恵みの一汁三菜で、家族の体と心に栄養を」：北日本新聞, pp. 16-17 (H30. 11. 1)
- ③ とやま幸の食卓②「温かな汁物は寒い日の幸せです」：北日本新聞, (H30. 12. 1)
- ④ とやま幸の食卓③「食卓にもう一品 カンタンおいしい郷土料理」：北日本新聞, (H31. 1. 6)
- ⑤ とやま幸の食卓④「郷土料理を楽しくアレンジ。伝統を生かす絶品おかず。」：北日本新聞, p. 24 (H31. 2. 16)
- ⑥ とやま幸の食卓⑤：北日本新聞, (H31. 3. 18)

稗苗智恵子

- ① 地域住民を対象とした健康寿命延伸のための乳和食等による減塩食の栄養指導の検討 単著 富山短期大学紀要第 55 巻 P.141-145 (H31.3)

【新聞・その他】

- ① 生理痛と食事：北日本新聞 (H31. 3. 29)

樋口康彦

【論文】

- ① 樋口康彦：マスコミ、学校、家庭が個人の食行動に与える影響，富山短期大学紀要(富山短期大学)，第 55 巻，Pp.32～46(2019 年 3 月) 単著
- ② 樋口康彦：短大生の食行動に影響を与える要因に関する研究，富山短期大学紀要(富山短期大学)，第 55 巻，Pp.47～60(2019 年 3 月) 単著

山岸博美

【論文】

- ① 「短期大学生・専攻科学生の献立作成に関する調査報告」，富山短期大学研究紀要第 55 号,2019 年 3 月, pp134～140

大森聡

【論文】

- ① Okamura, Y. Omori, A. Asada, N. Ono, A. : Effects of vitamin C and E on toxic action of alcohol on partial hepatectomy-induced liver regeneration in rats, J. Clin. Biochem. Nutr., 63, 50-57 (2018) 共著

角田香澄

【論文】

- ① Matsumoto, T., Tsunda, K., et al.: Species identification of the raw materials of processed eel foods sold in Kagoshima Prefecture from 2013-2017 using polymerase chain reaction restriction fragment length polymorphism. 鹿児島純心女子大学看護栄養学部 紀要 Vol.22, (2018) 共著

藤田恭輔

【論文】

- ① Fujii, T., Shimizu, T., Yamamoto, S., Funayama, K., Fujita, K., Tabuchi, Y., Sakai, H.: Crosstalk between Na⁺, K⁺-ATPase and a volume-regulated anion channel in membrane microdomains of human cancer cells, *Biochim. Biophys. Acta - Mol. Basis Dis.*, 1864, 3792-3804 (2018) 共著
- ② Watanabe, S., Fujita, K., Nishida, T., Imura, J.: Ameliorative effect of animal bile preparations on dextran sulfate sodium-induced colitis in mice, *Tradit. Kampo Med.*, 5, 67-74 (2018) 共著

所属学会・研究会・研究発表等

田淵英一

【所属学会】

日本生理学会、日本味と匂学会、日本栄養改善学会、日本情動学会、国際脳研究機構

【研究発表】

- ① 栄養・作業・運動療法により認知症状が維持・改善した高齢認知症症例. 第65回日本栄養改善学会学術総会, 新潟, p269 (2018.9)
- ② 栄養・作業・運動療法により認知症状が改善しなかった高齢認知症症例. 第65回日本栄養改善学会学術総会, 新潟, p269 (2018.9)
- ③ 発芽玄米摂取によるアレルギー性鼻炎症状の改善. 第65回日本栄養改善学会学術総会, 新潟, p321 (2018.9)
- ④ 発芽玄米摂取によるアトピー性皮膚炎症状の改善. 第65回日本栄養改善学会学術総会, 新潟, p321 (2018.9)
- ⑤ 一般成人女性における糖代謝マーカー及び血圧に対するトランス脂肪酸 1.5%エネルギー摂取の影響. 第65回日本栄養改善学会学術総会, 新潟, p271 (2018.9)
- ⑥ 脂質摂取と血中脂肪および糖代謝マーカーとの関係—β3 アドレナリン受容体の遺伝子タイプ別解析—. 第65回日本栄養改善学会学術総会, 新潟, p271 (2018.9)

竹内弘幸

【所属学会】

日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本油化学会、日本肥満学会、日本臨床栄養学会

【研究発表】

- ① 一般成人女性における糖代謝マーカー及び血圧に対するトランス脂肪酸 1.5%エネルギー

摂取の影響、第 65 回日本栄養改善学会学術総会、9 月、新潟、p271 (2018)

- ② 脂質摂取と血中脂質および糖代謝マーカーとの関係 - β 3 アドレナリン受容体遺伝子のタイプ別解析 -、第 65 回日本栄養改善学会学術総会、9 月、新潟、p271 (2018)

深井康子

【所属学会】

日本咀嚼学会（評議員）、日本伝統食品研究会（理事）、日本家政学会、日本家政学会食文化研究部会、日本調理科学会、高分子学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会

【研究発表】

- ① 岩口杏奈, 下川真梨, 深井康子: 米ペースト/南瓜混合パンケーキの調理特性, 日本調理科学会東海・北陸支部第 14 回研究発表会, 名古屋, 研究発表プログラム p. 7 (H30. 7)
- ② 下川真梨, 岩口杏奈, 深井康子: 米ペースト焼き菓子の性状に及ぼす南瓜添加の影響, 日本調理科学会東海・北陸支部第 14 回研究発表会, 名古屋, 研究発表プログラム p. 6 (H30. 7)
- ③ 深井康子, 守田律子, 原田澄子, 稗苗智恵子, 中根一恵: 富山県の家庭料理 主菜の特徴 - 四季を通じて豊富な魚料理 -, 日本調理科学会平成 30 年度大会, 兵庫, 研究発表要旨集 p. 93 (H30. 8)

堀田裕史

【所属学会】

情報処理学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本栄養改善学会

【研究発表】

- ① 山口理紗、堀田裕史: 長野県と富山県にみる病気別死亡原因の特徴、及び食物・生活環境等との関連の検討, 第 14 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会講演要旨集, P20 (H31. 2)

稗苗智恵子

【所属学会】

日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会、日本健康・栄養システム学会、日本調理科学会、日本栄養士会

【研究発表】

- ① 第 65 回日本栄養改善学会学術総会: 地域における高齢者の栄養状態の把握 共著 新潟 P.252 (H30.9)
- ② 第 65 回日本栄養改善学会学術総会: 高齢者を対象とした乳和食の開発と普及活動 共著 新潟 P.306 (H30.9)
- ③ 深井康子, 守田律子, 原田澄子, 稗苗智恵子, 中根一恵: 富山県の家庭料理 主菜特徴: 四季を通じて豊富な魚料理, 日本調理科学会平成 30 年度大会, 兵庫, 研究発表要旨集 P.93(H30.8)

樋口康彦

【所属学会】

日本応用心理学会、日本栄養改善学会

【研究発表】

- ① 第 65 回日本栄養改善学会学術総会：短大生の昼食に影響を与える要因, P301 共著 新潟県 (H30.9)

山岸博美

【所属学会】

日本食育学会、日本栄養改善学会、日本栄養士会

【研究発表】

- ① 短期大学生における食生活縦断調査に関する研究, 第 2 回栄養教諭食育研究会. 岐阜, P63 (2018.8)
- ② 山岸博美, 沢田朱音, 堀まどか, 角田香澄, 専攻科生による子ども食堂への食育活動について, 第 14 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会講演要旨集, P. 18 (2019.2)

高木尚紘

【所属学会】

日本健康教育学会、日本栄養改善学会、日本スポーツ栄養学会、日本栄養士会

【研究発表】

- ① 高木尚紘, 首尾一貫感覚の高さが健康行動に与える影響, 第 27 回日本健康教育学会学術大会講演集, p. 82 (H30, 7)
- ② 加田大知, 高木尚紘, SOC は健康行動と関連するか, 27 回日本健康教育学会学術大会講演集, p. 78 (H30, 7)

大森聡

【所属学会】

日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会

【研究発表】

- ① 大森聡, 常本麻土香, 岡村友理香, 浅田憲彦, 小野章史：白飯におけるとろみ調整食品の添加が食後血糖上昇におよぼす影響, 第 65 回日本栄養改善学会学術総会, 9 月, 新潟, 第 65 回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集 P. 141 (2018)
- ② 常本麻土香, 岡村友理香, 大森聡：とろみ調整食品の添加およびゲル化剤の添加が食後血糖上昇に与える影響, 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会, 1 月, 横浜, 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会プログラム・講演抄録集 P. 108 (2019)

角田香澄

【所属学会】

日本食品衛生学会、日本公衆衛生学会、日本ミトコンドリア学会、日本マイコトキシン学会

日本栄養改善学会

【研究発表】

- ① 山岸博美, 沢田朱音, 堀まどか, 角田香澄: 専攻科生による子ども食堂への食育活動について, 第 14 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会講演要旨集, P. 18 (2019. 2)

藤田恭輔

【所属学会】

日本薬学会、日本生化学会、日本栄養改善学会、和漢医薬学会

【研究発表】

- ① 藤田恭輔, コール酸誘発性肝傷害および肝脂質代謝に対する防己黄耆湯の効果, 第 35 回和漢医薬学会学術大会 (岐阜 9 月 1 日) 要旨集 50 (2018)
- ② 藤田恭輔, 濱田和花, 茶谷大輝, 渡辺志朗, がん悪液質モデルマウスに対するエゴマ葉の効果, 日本薬学会 第 139 年会 (千葉 3 月 21 日) 要旨集 (2019)

【受賞】

和漢医薬学会奨励賞 (2018)

研究助成の申請 (採択分)

田淵英一

- ① 富山第一銀行奨学財団研究助成: 地域住民の脳トレーニング普及推進による認知症予防対策, 代表, H30. 7~31. 3, 75 万円
- ② 五州薬品 (株) 共同研究経費: 経口補水液の軽度・中等度脱水症状患者への食事療法としての有効性の検討. 分担, H30. 7~31. 3, 20 万円
- ③ 科学研究費助成: 基盤研究 (C) テーラーメイド脂質栄養学の確立を目指した遺伝子多型と脂質摂取との相互作用の解の解明, 分担研究, H28. 4~31. 3, 45 万円

竹内弘幸

- ① 平成 28 年度科学研究費助成授業基盤研究 (C), テーラーメイド脂質栄養学の確立を目指した遺伝子多型と脂質摂取との相互作用の解明, 代表者, 期間; 平成 28. 4~31. 3, 金額; 360 万円.

稗苗智恵子

- ① 富山第一銀行奨学財団研究助成: 地域住民を対象とした健康寿命延伸のための乳和食等による減塩食の栄養指導の検討 H30. 7~31. 3, 25 万円

高木尚紘

- ① 平成 30 年度学長裁量経費: 身体活動量は首尾一貫感覚と関連する。期間 H30. 4~H31. 3 研究経費 16 万円

大森聡

- ① 平成 30 年度学長裁量経費: 在学生および卒業生に対する管理栄養士国家試験学習サポート (継続), 期間 H30. 4~H31. 3, 金額 14 万円
- ② 平成 30 年度学長裁量経費: 衛生状態の「数値化」「見える化」による衛生管理教育効果の

検討，期間 H30.4～H31.3，金額 18 万円

- ③ 平成 30 年度公益財団法人富山県ひとつくり財団高等教育振興事業助成金：とろみ調整食品の添加および食形態の違いが食後血糖上昇へ与える影響，期間 H30.4～H31.3，金額 50 万円

角田香澄

- ① 富山短期大学・学長裁量研究費：元気、とやまっこを育てよう 2018，代表，H30.4～31.3，11 万円
- ② 富山県厚生部子ども支援課「子どもほっとサロン事業」，代表，H30.4～H31.3，30 万円

藤田恭輔

- ① 科学研究費助成：若手研究（B）機能性トリテルペンのがん悪液質性筋萎縮に対する改善効果の検証，代表，H29.4～32.3，310 万円
- ② 富山短期大学・学長裁量研究費：がん悪液質モデルマウスに対するエゴマ葉の効果の検証，代表，H30.4～31.3，25 万円

(2) 社会的活動

講演・講義・シンポジウム

田淵英一

【講演】

- ① おもしろ脳トレーニング．高岡市古府公民館講演会，2018.2.20. 高岡
- ② 平成 29 年度脳トレ研修会．脳トレ立山・立山町社会福祉協議会，2018.2.27. 立山町
- ③ ボケないための脳トレーニングと脳の話．開館 35 周年記念金岡邸活性化事業金岡邸「健康講演会」，2018.3.4. 富山
- ④ 脳のしくみと頭を柔らかくする脳トレーニング．北陸銀行健康保険組合げんき一ぷ 2 1 セミナー，2018.2.24. 富山
- ⑤ 認知症予防のための脳トレーニング．北日本新聞とやま健康・福祉・介護フェア 2018，2018.3.18. 富山
- ⑥ 効率のよい記憶のトレーニング方法、脳のしくみ、脳トレーニング．健康講座研修会，小矢部大谷校下地区社協連絡会，2018.6.30. 小矢部
- ⑦ 認知症予防のための脳トレーニング．ふるさと探究講座「健やかにくらす」，県民カレッジ高岡，2018.7.28. 高岡
- ⑧ 楽しく脳を鍛えましょう！！．小矢部心を考える会研修会，砺波厚生センター小矢部支所，2018.7.4. 小矢部
- ⑨ アウトメディアで脳（能）力アップ！．大沢野中学校，2018.10.20. 富山
- ⑩ 脳の機能と脳トレで元気いきいき．健康教育事業，大山保健福祉センター，2018.11.14. 富山
- ⑪ 健康寿命を延ばす頭と体の運動の効能．年リンピック富山リーダー研修会健康寿命をのばす地域リーダー養成講座，富山県社会福祉協議会，2019.1.9. 富山

- ⑫ 認知症予防のための食事法と脳トレーニング．富山市食生活改善推進連絡協議会研修会，2019.1.16. 富山
- ⑬ 認知症予防と脳トレーニング．大沢野北親会講演会，北陸銀行，2019.2.15. 富山
- ⑭ 地域ふれあいサロンにおける脳トレの効果と役割．地域ふれあいサロン世話人研修会，(社福)射水市社会福祉協議会，2019.3.14. 射水
- ⑮ とれたてワイド朝生「教えて！ティーチャー！」2018. 7. 25, KNB ラジオ

【講義】

- ① 富山市民大学講座：楽しい脳トレーニング 年10回 (H30.5～10)
- ② 富山いきいき長寿大学専門的実践講座：いきいき脳トレリーダー養成講座 年6回 (H30.10～H31.2)
- ③ 富山国際大学こども育成学部：精神保健 年6回 (H30.4～7)
- ④ 富山国際大学こども育成学部：医学一般 年15回 (H30.10～H31.2)
- ⑤ 脳トレクラブ交流会 年1回 (H31.3)
- ⑥ 高岡市福岡町社会福祉協議会 「脳トレリーダー養成講座」(2回/6回)．2018年，高岡．
- ⑦ となみ野脳トレクラブ「脳トレリーダー養成講座」(計2回/6回)．2018年，砺波．
- ⑧ 富山短期大学出張講義：龍谷富山高校 管理栄養士・栄養士とは+食育脳トレ．2018.3.9. 富山．
- ⑨ 富山短期大学出張講義：水橋高校 管理栄養士・栄養士とは+食育脳トレ．2018.12.5. 富山．

竹内弘幸

【講演】

- ① 食生活改善推進連絡協議会リーダー研修会、「生活習慣病にならないために」、富山市保健所(富山市)、5月31日(2018)．
- ② 第66回日本海水産物利用担当者会議特別講演、「ホタルイカの機能性に関する研究」、富山県民共生センターサンフォルテ(富山市)、7月5日(2018)．
- ③ 平成30年度富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー、「富山湾産のホタルイカの価値向上に関する研究」、キラリホール(富山市)、7月6日(2018)．
- ④ 富山県民生涯教育カレッジ富山地区教養講座、「油の栄養-話題の健康オイルと腸内環境-」、県民カレッジ富山地区センター(富山市)、8月3日(2018)．
- ⑤ 富山県鍼灸マッサージ師会第9回県民公開講座、「現代を生きるための栄養学 進化栄養学と発酵食品について」、富山県総合福祉会館サンシップとやま(富山市)、9月30日(2018)．
- ⑥ 平成30年度高岡市生涯学習センター連携講座、「発酵食品の健康パワー!」、高岡市生涯学習センター(高岡市)、2月19日(2019)．

深井康子

【講演】

- ① 平成30年度南砺市市民大学講座「人と自然・文化」：次世代に伝えたい 富山の食文化, 福光福祉会館(H30.7.3)

- ② 高岡市学校給食のつどい：子どもの意欲を育てる”人と共に食べること”，高岡文化会館（H30.8.6）
- ③ 平成30年度給食施設関係職員研修会：食事をおいしくする減塩の工夫，砺波まなび交流館（H30.8.22）
- ④ 平成30年度食生活改善推進連絡協議会リーダー研修会：健康づくり保健栄養教室「栄養・調理の基礎知識」，富山市保健所（H30.9.14）
- ⑤ 平成30年度特定給食施設等関係者研修会：和食を支えるだし文化～次世代に継ぐ日本の家庭料理～，立山町元気交流ステーション（H30.9.14）
- ⑥ 富山市調理員研修会：スキムミルクの特性、スキムミルクを使用した調理実習，富山南保健センター（H30.12.11）
- ⑦ 富山県消費者協会研修会：食材を丸ごと使い切ろう，富山県共生センターサンフォルテ（H30.12.25）
- ⑧ 富山県食品産業協会：米粉を使った料理教室，富山短期大学（H31.2.23）
- ⑨ 北日本新聞社・㈱アルビス：親子料理教室，富山短期大学（H31.3.16）

【講義】

- ① 富山市民大学：「健康生活の知恵」コース 2回
第1回 日本が誇れる和食文化（H30.6）
第2回 「富山の家庭料理」出版から見た健康生活の知恵（H30.7）
- ② 富山短期大学幼児教育学科：子どもの食と栄養Ⅰ 前期15回（H30.4～H30.8）
- ③ 富山市医師会看護専門学校：食生活と栄養8回（H30.5～7）
- ④ 富山県立いずみ高等学校：特別授業「食と環境」
第1回 災害時における食生活支援（H30.11）
第2回 次世代に伝えたい 富山の食文化（H30.11）
第3回 災害時の食事～調理実習～（H31.2）
- ⑤ 富山国際大学子ども育成学部：生活文化演習1回（H30.11）

稗苗智恵子

【講演】

- ① 富山県薬業連合会：～世代ごとの食事ポイント～ 生活習慣病と栄養について 富山市（H30.4）
- ② 富山県新川厚生センター：バランスのとれた食事でがん予防 黒部市（H30.7）
- ③ 富山市保健所：60歳代からの食生活 富山市（H30.7）
- ④ 富山県助産師会：妊娠期から授乳期における栄養について 富山市（H30.9）
- ⑤ 富山市保健所八尾地域ぐるみ健康づくり交流会：個人・家庭・地域で挑戦！ 食で健康なカラダづくり 富山市（H30.9）
- ⑥ 立山町健康づくりボランティア：食事と健康寿命のお話し 中新川郡立山町（H30.11）
- ⑦ 政岡内科病院：褥瘡と栄養の関係 富山市（H30.11）

【講義】

- ① 氷見高等学校 専門技術者等招聘講座：栄養士・栄養教諭の仕事とは 最近の青年期の食

- に関する話題と食育について 氷見市 (H30.11)
- ② 富山県立総合衛生学院看護学科：栄養学 富山市 (H30.5)
 - ③ 富山県立総合衛生学院助産科：母子の栄養 富山市 (H30.6)

樋口康彦

【講義】

- ① 富山短期大学幼児教育学科：教育心理学 (H30.4～8)
- ② 富山短期大学福祉学科：生活と社会 (H30.4～8)
- ③ 富山短期大学福祉学科：心理一般 (H30.9～H30.2)

山岸博美

【講演】

- ① 平成 30 年度第 1 回富山県子どもほっとサロンネットワーク交流会における献立検討講師
(富山県厚生部：H30.5)
- ② 富山県高等学校定時制学校給食研究協議会講演 (富山県：H30.6)
- ③ 健康づくり保健栄養教室講師 (富山市保健所：H30.6)
- ④ 子育て家族応援講座 (料理講師) (氷見市社会福祉協議会：H30.7)
- ⑤ 親子クッキング (南砺市保育士会：H30.7～8 (2 回開催))
- ⑥ 悠久の森 2018 森につどおう：栄養相談 (悠久の森実行委員会：H30.8)
- ⑦ 若者世代におけるこれからの食育 (砺波市立出町中学校 PTA 主催講演会：H30.11)
- ⑧ とやま農業未来カレッジと富山短期大学との調理体験交流会 (調理講師) (とやま農業未来カレッジ：H30.11)
- ⑨ 保育所等における食事の提供ガイドライン (富山市認定こども園協議会：H30.12)

高木尚紘

【講演】

- ① 富山県栄養士会生涯教育基本研修：「献立計画～実施献立」(H. 30. 9)

大森聡

【講演】

- ① 富山県民生涯学習カレッジ新川地区センター 健康長寿～地域で健康に暮らす～ (H. 30. 4)
- ② 滑川市福寿大学 栄養を正しく理解する (H. 30. 6)
- ③ 富山県栄養士会生涯教育 基本研修 対象者の把握食品構成 (演習) (H. 30. 8)
- ④ 高岡市西条地区避難所運営実地訓練 食料物資班訓練 栄養・食事について (H. 30. 11)

【講義】

- ① 富山歯科総合学院：栄養指導 (H30. 6～7)
- ② 栄養士ってどんな仕事？ 出張授業滑川高校 (H30. 7)

角田香澄

【講演】

- ① 富山県栄養士会生涯教育基本研修：「衛生管理・感染対策」（H. 30. 9）
- ② 上市町立上市中央小学校：学校保健委員会 講師（H30. 11）

藤田恭輔

【講演】

- ① H30 年度 健康づくり保健栄養教室：「生活習慣とがん」（H30. 8）

行政および関係者等への審議会・研究会委員等

田淵英一

- ① 日本生理学会評議員
- ② 日本情動学会評議員
- ③ 富山大学医学部同窓会会長（理事）、会報編集委員
- ④ 富山大学同窓会連合会副会長（幹事）
- ⑤ 富山大学杉谷（医薬系）キャンパス国際交流助成会理事
- ⑥ 富山県立総合衛生学院助産学科入試問題作成委員
- ⑦ 富山国際大学倫理委員会委員
- ⑧ 医療法人社団功連会中川病院（精神神経科・内科）非常勤医師
- ⑨ 社会福祉法人あゆみの郷（重度心身障害施設）非常勤医師
- ⑩ 萩野病院（内科）非常勤医師
- ⑪ 富山国際大学附属高等学校 学校医
- ⑫ 富山やくぜん認定委員会委員長
- ⑬ ねんりんピック富山 2018 厚生労働省行政情報発信コーナー 脳トレ体験コーナー監修，
2018. 11. 3-5.
- ⑭ 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会大会長
- ⑮ 第 14 回日本栄養改善学会北陸支部総会実行委員

竹内弘幸

- ① 日本栄養改善学会（評議員，第 66 回学術総会会長、北陸支部幹事）
- ② 日本栄養・食糧学会（代議員）
- ③ 日本油化学会
- ④ 富山県衛生研究所外部評価委員

深井康子

- ① 特定非営利活動法人日本咀嚼学会 評議員
- ② 日本調理科学会 家庭料理特別研究 富山県編集責任者
- ③ 日本調理科学会東海北陸支部役員・富山県連絡委員
- ④ 日本伝統食品研究会 理事
- ⑤ 富山県消費者協会 副会長

- ⑥ 富山県食育推進会議委員
- ⑦ 富山県環境審議会委員
- ⑧ 富山県大規模小売店舗立地審議会委員
- ⑨ 食のとやまブランドマーケティング戦略検討委員会委員
- ⑩ 富山県生涯学習審議会委員
- ⑪ 富山県卸売市場審議会委員
- ⑫ 富山県産米粉用米需要拡大推進会議委員・議長
- ⑬ 富山県食肉惣菜コンテスト審査委員
- ⑭ 富山県民生涯学習カレッジ高岡地区センター運営会議委員・会長
- ⑮ 富山市市民学習センター運営協議会委員
- ⑯ 高岡市食育推進会議委員・議長
- ⑰ 砺波市食育会議推進委員・議長
- ⑱ 富山市市民学習センター運営協議会委員
- ⑲ ALL 富山 COC+（プラス）教育プログラム開発委員会委員（H30.4～）
- ⑳ 大学コンソーシアム富山教育連携部会委員（H30.4～）
- ㉑ 富山県ジビエ研究会委員（H30.4～）

稗苗智恵子

- ① とやま在宅協議会委員（H26.7～）
- ② 「富山市健康プラン21」推進委員会委員（H28.2～）
- ③ 魚津市食育推進委員会委員（H28.3～）
- ④ 富山県公衆栄養研究会相談役
- ⑤ （公社）富山県薬剤師会倫理審査委員会委員
- ⑥ 第66回日本栄養改善学会学術総会実行委員会

山岸博美

- ① 高岡厚生センター管内食育推進連絡会委員（H24～）
- ② 富山県保育士会南砺市委託研究講師（H27～）
- ③ 氷見市学校給食センター整備検討委員（H28～）

高木尚紘

- ① 富山県栄養士会 研究教育事業部理事

大森聡

- ① 川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科臨床栄養学専攻 研究生
- ② 富山県栄養士会 広報部副部長（H.29～）
- ③ 富山県栄養士会 研究教育事業部理事（H.29～）

藤田恭輔

① 「富山やくぜん」認定委員

(3) 所属関連団体研修

富山県栄養士会
富山県栄養士会総会
生涯学習研修

2 地域社会への貢献

(1) 公開特別講演会

(1) 実績

2016年度から、食物栄養学科と専攻科の特別講演会を合併して開催している。講演会の演者は、栄養士・管理栄養士に必要とされる専門的な内容を様々な視点からの講演内容となった。

公開特別講演会 平成30年9月29日(土) 13:10~16:30 富山短期大学

| 演題 | 講師名 | 参加者 |
|---------------------------------------|------------------------------|---|
| 食べて治す食物アレルギー ー栄養士さん に知ってほしい新しい考え方ー | 伊藤 靖典 先生 富山大学医学部小児科 助教 | 学科 146 専攻科 28 教職員 16 一般県民 10 報道関係 0 |
| | 本多 京子 先生 医学博士・管理栄養士 | 合計 200名 |
| 食物アレルギー 食育の視点から | | |

(2) 課題

公開講座ということで、本学の学生のみならず、県栄養士会員や地域住民等一般からの参加を増員するため、地域連携センターと連携を図りながら行っていく。また、最新の栄養学等の情報を発信していく担い手としての大学の役割を地域等にPRしていく。

(2) 公開講座

(1) 実績

食物栄養学科教員が担当した公開講座の実施日時や受講者数は、以下の表の通りである。

平成30年度

| 講座名 | 実施日時 | 講師 | 講座内容 | 受講者数 |
|--------|------------------------|------------|----------------|------|
| 滑川福寿大学 | 6月8日(金) 13:30~14:40 | 大森 聡 講師 | 栄養を正しく理解 する | 69名 |

| | | | | |
|-------------|-------------------------|--------------|-------------------|----------|
| 八尾ふらっと館 | 9月7日(金) 14:00~15:10 | 樋口 康彦 講師 | 老年期における様々な変化と生きがい | 開講されなかった |
| みどりの幼稚園 | 9月18日(火) 9:30~11:30 | 深井 康子 教授 | 家族で作って伝える、ほっこりおやつ | 17名 |
| 富山短期大学 | 12月1日(土) 9:30~12:00 | 山岸 博美 講師 | 健康寿命を延ばす食事 | 17名 |
| ウィング・ウィング高岡 | 2月19日(火) 14:00~15:10 | 竹内 弘幸 教授 | 発酵食品の健康パワー! | 33名 |
| | 3月5日(火) 14:00~15:10 | 稗苗 智恵子 教授 | 食事と健康寿命のお話 | 33名 |

(2) 課題

昨年度より増して地域に密着し貢献していくことや、県内活動拠点の開発が必要と考えられる。

IV 入学者確保

1 学生募集

(1) 実績

平成31年度1次入学試験で12名の志願者がおり、うち1名欠席であった。2次試験の志願者はおらず、11名の入学定員数確保となった。

過去3年間の入試区分ごとの募集人員、受験者、入学者の数を表1に示した。第1次募集では、定員(14名)より3名少ない11名の受験者があった。本学食物栄養学科を卒業後、専攻科進学を希望して1年間の栄養士実務に就いていた卒業生11名が受験した。過去3年の受験者数/募集定員数は、0.7~1.3倍の間で推移しているが、今年度は特に低い倍率となった。

表1 平成29年~31年度入試の受験・合格・入学者状況()は男性

| 入試区分 | 募集人員 | | | 受験者 | | | 合格者 | | | 入学者 | | |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-------|
| | H31 | H30 | H29 | H31 | H30 | H29 | H31 | H30 | H29 | H31 | H30 | H29 |
| 第1次 | 14 | 14 | 14 | 11 | 18 | 15 | 11 | 15 | 15 | 11(1) | 14 | 14(1) |
| 第2次 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 計 | 15 | 15 | 15 | 11 | 19 | 15 | 11 | 16 | 15 | 11(1) | 15 | 14(1) |

(2) 課題

1) 平成27~31年度入試の受験者数推移を表2に示した。過去にも、定員数が充足しなかった年度(平成22・23、29年度など)があったが、平成31年度についても定員数が充足しなかった。その原因として、管理栄養士国家試験の早期化による受験資格期間満了が延期

され、国家試験受験が1年延長となったことが挙げられる。研究生制度も今年度が初めてであり、管理栄養士国家試験の合格率等不明な点が多いことから、今後も研究生の管理栄養士国家試験に向けたサポートをしっかりと行い、定員確保に繋げていきたい。

- 2) 研究生の魅力として、最長2年間、無償で他学科を含む富山短期大学内や国際大学の授業の聴講が可能であること、国家試験対策講座の受講が可能であることがある。また、第1期生の研究生からの意見を踏まえ、さらに研究生の魅力を考える必要がある。そして、その魅力を対象となる在學生や高校生に対して具体的にかつ丁寧に説明していくことが大切である。
- 3) 特別研究では、1年半をかけて指導教員のもとで研究を実施して研究論文(レポート)を仕上げていく。そのため、教員一人当たりの指導学生数が増えることで、指導教員の負担が大きくなるという問題がある。専攻科教員は食物栄養学科教員を兼務していることや、特別研究を担当していない教員がいることもあり、今後、教育の質を維持しながら指導するためには、個人および学科単位での創意工夫や、特別研究を担当できる教員の育成が必要である。

表2 平成27年～31年の入試受験者数推移 ()は男性

| 入試区分 | H31年 | H30年 | H29年 | H28年 | H27年 |
|------|-------|------|--------|--------|------|
| 第1次 | 11 | 18 | 15 (1) | 15 (1) | 17 |
| 第2次 | 0 | 1 | 実施せず | 実施せず | 実施せず |
| 第3次 | | | | 実施せず | 実施せず |
| 計 | 11(1) | 19 | 15 (1) | 15 (1) | 17 |

2 入学試験

(1) 実績

平成31年度入学試験では、第1次受験者は11名で、第2次受験者が0名だった。過去5年間で最も少ない受験者数であった。平成31年度の入試の日程を表3に示した。選考方法は、書類審査70点(志望理由書、成績証明書)、口頭試問20点、面接10点の合計100点満点とする総合評価である。

表3 平成31年度の入試日程

| 日程 | 出願期間 | 選考日 | 合格発表日 |
|-----|---------------------------|---------------|---------------|
| 第1次 | 平成30年8月29日(水)～ 9月7日(金) | 平成30年9月11日(火) | 平成30年9月14日(金) |
| 第2次 | 平成31年1月7日(月)～ 1月28日(月) | 平成31年2月2日(土) | 平成31年2月9日(土) |

(2) 課題

- 1) 平成31年度入学試験では、1次の募集人員14名に対し12名が出願し、11名が合格した。なお、欠席者は1名であり、入学手続きをしたのは11名であった。欠席した1名は、食物栄養学科卒業時は管理栄養士を目指すために専攻科に進む予定であったが、1年間の実務中

に自身の今後のキャリアプランについて再度検討をし、当時の担任とも話し合いの結果、未受験となった。

- 2) 管理栄養士国家試験の早期化による受験資格期間満了が延期されたことにより、専攻科への進学が学生にとって有意義で魅力的な時間とすることが可能であることを周知し、学生が不安に思う内容を掘り下げて確認する必要がある。

3 広報

専攻科希望者のほとんど（平成 29・30 年度入学生はそれぞれ 14 名中 13 名、15 名中 13 名）が本学食物栄養学科卒業生である。そのため、高校生を対象とした広報では、富山県内の高校訪問を実施した際に本学には専攻科食物栄養専攻があり、管理栄養士を養成する科があることを周知することを行っている。そして主に、本学食物栄養学科入学者に対し、向学心の強い仲間たちと 2 年間勉強だけに専念できる点など専攻科の長所をアピールし、志願者を募っている。また、本学食物栄養学科在学時の早い段階で専攻科進学を学生に意識してもらうことを目指している。ここ数年、こういった明確な広報戦略が漸く功を奏し、専攻科進学希望者を確保できている。今後は、向学心の高い学生をより多く専攻科へ導くかが課題と思われる。そのためには、管理栄養士国家試験の合格率を維持・上昇させることが重要である。

(1) 実績

専攻科希望者は本学の卒業生が多い。従って、本学関係者に限定しない一般の高校生対象とする専攻科に関する広報は、直接専攻科志願者を募るものではなく、専攻科があることによる学科への進学意欲の向上と、短大在学時の早い段階での専攻科進学を意識してもらうことにある。

1) 本学訪問、進学相談会、出張授業など

オープンキャンパス、高校関係者の本学訪問時の学科紹介兼ガイド、進学相談会、高校での校内説明会、高校での模擬授業等を実施した。以下に詳細を記載する。

進学相談会

| | 月日 | 曜日 | 場所 | 担当教員 |
|---|------|----|---------------------|------|
| 1 | 6月5日 | 火 | オークスカナルパーク ホテル富山 | 竹内 |

高校関係者本学訪問

| | 月日 | 曜日 | 対象 | 担当教員 |
|---|-------|----|-------------|--------------------|
| 1 | 6月27日 | 水 | 富山商業高校 PTA | 山岸 |
| 2 | 6月29日 | 金 | 高校教員対象入試説明会 | 竹内・田淵・稗苗・ 深井・中根 |
| 3 | 7月6日 | 金 | 小杉高校 | 竹内 |
| 4 | 7月9日 | 月 | 富山いずみ高校 | 竹内 |

| | | | | |
|----|--------|---|-----------|-------------------|
| 5 | 7月10日 | 火 | 富山西高校 | 中根 |
| 6 | 7月23日 | 月 | 附属高校 | 高木・山岸・竹内 樋口・深井 |
| 7 | 7月24日 | 火 | 附属高校 | 稗苗・堀田・田淵 角田・中根 |
| 8 | 10月9日 | 火 | 八尾高校 PTA | 深井 |
| 9 | 10月12日 | 金 | 泊高校 P T A | 稗苗 |
| 10 | 12月10日 | 月 | 富山北部高校 | 竹内 |
| 11 | 3月26日 | 火 | さんぽうバスツアー | 稗苗 |

高校での進路ガイダンス

| | 月日 | 曜日 | 高校名 | 担当教員 |
|----|--------|----|--------|------|
| 1 | 4月17日 | 火 | 氷見高校 | 山岸 |
| 2 | 4月27日 | 金 | 入善高校 | 山岸 |
| 3 | 6月13日 | 水 | 新湊高校 | 稗苗 |
| 4 | 6月13日 | 水 | 高岡龍谷高校 | 竹内 |
| 5 | 7月6日 | 金 | 龍谷富山高校 | 高木 |
| 6 | 7月10日 | 火 | 高岡第一高校 | 稗苗 |
| 7 | 7月12日 | 木 | 富山西高校 | 中根 |
| 8 | 7月17日 | 火 | 雄山高校 | 大森 |
| 9 | 9月5日 | 水 | 小杉高校 | 山岸 |
| 10 | 9月19日 | 水 | 水橋高校 | 竹内 |
| 11 | 11月13日 | 火 | 上市高校 | 中根 |
| 12 | 11月14日 | 水 | 桜井高校 | 深井 |
| 13 | 12月5日 | 水 | 高岡龍谷高校 | 山岸 |
| 14 | 12月6日 | 木 | 高岡商業高校 | 稗苗 |
| 15 | 12月12日 | 水 | 雄山高校 | 中根 |
| 16 | 1月22日 | 火 | 上市高校 | 中根 |
| 17 | 1月23日 | 水 | 上市高校 | 稗苗 |
| 18 | 2月18日 | 月 | 志貴野高校 | 稗苗 |
| 19 | 3月8日 | 金 | 龍谷富山高校 | 大森 |
| 20 | 3月19日 | 火 | 南砺福光高校 | 中根 |

高校での模擬授業

| | 月日 | 曜日 | 会場 | 担当教員 |
|---|--------|----|---------|------|
| 1 | 7月2日 | 月 | 滑川高校 | 大森 |
| 2 | 9月18日 | 火 | 雄峰高校 | 中根 |
| 3 | 12月5日 | 水 | 水橋高校 | 田淵 |
| 4 | 12月17日 | 月 | 富山いずみ高校 | 稗苗 |

| | | | | |
|---|-------|---|--------|----|
| 5 | 3月8日 | 金 | 龍谷富山高校 | 大森 |
| 6 | 3月13日 | 水 | 雄山高校 | 大森 |
| 7 | 3月19日 | 火 | 南砺福光高校 | 中根 |
| 8 | 3月20日 | 水 | 泊高校 | 藤田 |

③新聞報道

食物栄養学科、専攻科食物栄養専攻と関連した新聞報道の報道年月日、タイトルは、研究・社会的活動・所属関連団体研修の各個人の欄を参照のこと。

④その他

a)ホームページ

2018年度に本学ホームページは全面改定を行った。本学科・専攻科食物栄養専攻のホームページはそれに応じて変更を行った。

b)ブログ

専攻科食物栄養専攻の新規ブログ記事は、4月0件、5月0件、6月3件、7月0件、8月1件、9月1件、10月1件、11月2件、12月1件、1月0件、2月2件、3月1件（平成31年3月31日現在）であった。

3) その他

知っとく情報では専攻科食物栄養専攻関係の記事を学科と共同で掲載した。

(2) 課題

1) ブログ

専攻科のブログ記事件数は食物栄養学科と比較すると少ない、今年度は12件のアップとなっている。前年度は6件のアップだったので、増加していると言える。食物栄養学科と同じ教員が専攻科を担当していることから、コンスタントに両方に記事を挙げていくことは非常に難しい。しかし、今後専攻科のブログ記事件数を増加させるために、特別研究の内容紹介や、専攻科の授業紹介を積極的に行うことで問題を解決できると思われる。次年度以降も全教員で協力してブログをアップしていく必要がある。

V マネジメント体制

1 自己点検

(1) 実績

専攻科食物栄養専攻の教職員は、食物栄養学科教職員の兼務で成り立っている。そのため、教職員一人一人が、専攻科食物栄養専攻および食物栄養学科のデプロマポリシーに沿って、2学科の運営にあたっている。

前期18回、後期17回の計35回の科内会議を開催し、ほぼ毎週、専攻科に関わる行事、教育、研究について計画、遂行、報告、チェックを行い、潤滑な学科運営に鋭意努力した(食物

栄養学科共同開催)。また、アクションプランに基づき自己点検を行い、アクションプランの点検表を作成した。年度始めには、各教員が個人年間計画・評価票を作成し、その内容について専攻科長が点検した。年度末には、個人年間計画・評価票に基づき、業務評価を行った。シラバスについては、専攻科長および教員委員が、記載事項について点検・修正依頼を実施した。

(2) 課題

前述のとおり、専攻科食物栄養専攻の教職員は、食物栄養学科教職員を兼務しており、多忙である。しかしその中でも、若手からベテランの全教員が教育および研究に対して意欲を持って取り組んでいる。このよい雰囲気をこれからも継続していきたい。

近年、毎年のようにベテラン教員が退職していく中で、今年もベテラン教員1名が定年退職し、次年度、次々年度も続く予定である。そのため、新規教員の採用を行わなければならない。それに伴う庶務や新人教員の教育、教職員の啓蒙などを行う必要がある。しかし、昨今の大学教員は、授業や研究の他にも、大学の各種業務、学外活動、行政支援、高大連携、自治体連携等の諸業務が多々あるため、日常の業務で多忙な中で追加業務を実施することの困難さに局面している。

2 FD/SD活動

(1) 実績

近年、大学や学外（富山県内大学コンソーシアム）主催のFD/SD研修会の機会が増え、本科の教職員も積極的に参加して教育・研究に対する自己啓発を行っている。その他にも、今年度から学科内でもFD/SD研修会を実施することにした。

(2) 課題

少子高齢化社会により、全国での大学数減少が必須であることや、幼稚園から大学までの連携教育など、教育界全体の多きな動きがあり、本学でも将来構想検討委員会を設置して、将来を見据えた教育改革を開始して実施しているところである。

3 資源の有効利用

(1) 実績

人材：今年度末で退職する教員が2名、次年度4月より新たに採用される教員が1名いるため、学科内の業務分担については見直しを図った。

設備・備品：次年度の教育・研究の充実のために、機器の予算申請を行ったが、予算が厳しかったことから却下された。

(2) 課題

今後も定年により退職予定の教員が控えているので、若手教員の早急な育成が必要である。